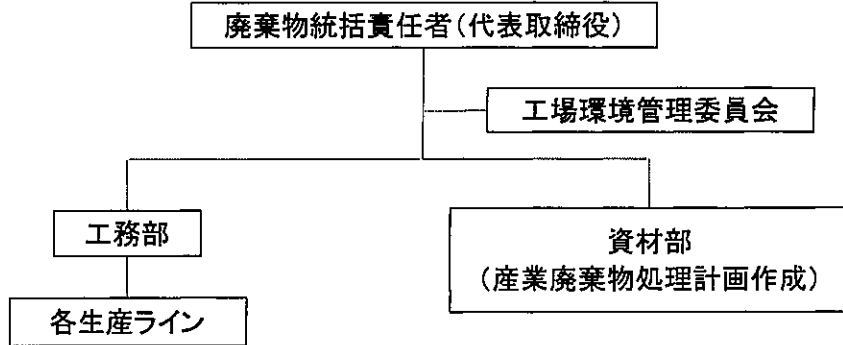


<p>産業廃棄物処理計画書</p> <p style="text-align: right;">令和4年5月31日</p> <p>静岡県知事 川勝 平太 殿</p> <p style="text-align: center;">提出者</p> <p style="text-align: right;">住所 静岡県富士市川成島213                  氏名 株式会社 山恭製紙所                  代表取締役社長 山田信英                  (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)                  電話番号 (0545) 61-0221</p> <p>廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。</p>	
事業場の名称	株式会社 山恭製紙所
事業場の所在地	静岡県富士市川成島213
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	パルプ・紙・加工品製造業【E14】
② 事業の規模	出荷額：2,144百万円 生産量：18,963t
③ 従業員数	65名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥：製紙排水を処理した汚泥として発生 → 脱水施設にて減量処理 → 協同焼却施設にて焼却処分・リサイクル 廃プラスチック等：古紙処理時に排出されるフィルム・プラスチック 及び製品仕上げ梱包材料の廃棄分等 ↓ 処理業者により焼却処分またはRPF燃料化

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和3年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1参照	
	排出量	別紙1参照	
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチックは業者を通じて焼却後埋立処分。汚泥は社内で脱水中間処理した後、富士製紙協同組合にて焼却処分、大部分を製鉄用薬剤・路盤材として再利用、残りは埋立処分となっている。古紙品質の悪化と、製品品質の向上によって、紙屑が増えてしまった。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1参照	
	排出量	別紙1参照	
	(今後実施する予定の取組) 昨年度は新型コロナの反動で生産量が増加したため、廃棄物の量も増加。汚泥が発生量のほとんどを占める。基本的に生産量に比例して発生するが、原料(古紙)品質が低下すると増加してしまう。製品品質との兼ね合いもあるが、使用可能な繊維分を含んでいるため、設備増強・技術的な研究・再利用により減少させたい。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 鉄屑：発生量の多いバインド線については、別管理することで、資源として業者に買い取ってもらっている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) その他鉄屑類は、資源化できるものについて可能な限り別管理を考えていきたい。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	204,681 t	— t
(これまでに実施した取組) 発生量の一番多い汚泥について、中間処理として脱水を行なってる。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	—
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	204,700 t	— t
(今後実施する予定の取組) 既にこれ以上の脱水は難しい状況であるが、他社との技術協力等で脱水効率の向上等による中間処理を推進する。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) —		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組) —		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙2参照	
	全処理委託量	別紙2参照	
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
	(これまでに実施した取組) 処理委託量の約95%を占める汚泥については、富士製紙協同組合にて焼却処分をおこなっている。その後、製紙用薬剤や路盤材としてリサイクルし、残りを埋め立て処分している。 富士製紙協同組合では現在リサイクルを積極的に推進しており、リサイクル率9割以上に達し、現在灰を埋め立てている割合は数%である。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙2参照	
	全処理委託量	別紙2参照	
	優良認定処理業者への処理委託量	— t	— t
	再生利用業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者への処理委託量	— t	— t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	— t	— t
<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>発生する汚泥の量は、生産量に一番の影響を受ける。また製紙業として使用する古紙の品質については年々劣化傾向にあり、古紙リサイクルが進むにつれて、汚泥も増加する傾向にある。会社単独で委託量を大幅に減少させることは難しい面もある。富士製紙協同組合の活動に積極的に参画し、組合を通じてリサイクル率向上に努めたい。</p> <p>製品品質向上を目指した結果、紙屑が増加することが確実であるが、増加分をなるべく抑えたい。</p> <p>また廃プラスチックについては、発生減に努めたい。</p>			
※事務処理欄			

別紙1 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

	汚泥(t)	廃プラスチック(t)	紙くず(t)	木くず(t)	ガラ陶(t)
現状 排出量	207,044	100.650	19.260	8.650	0.180
目標 排出量	207,000	50.000	18.500	8.000	0.150

別紙2 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

	汚泥(t)	廃プラスチック(t)	紙くず(t)	木くず(t)	ガラ陶(t)
現状 全処理委託量	2,363	100.650	19.260	8.650	0.180
目標 全処理委託量	2,300	50.000	18.500	8.000	0.150